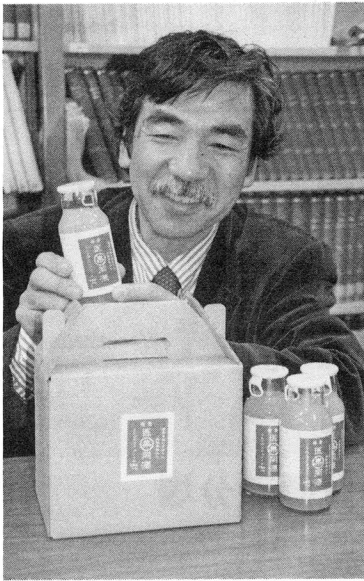


2008年(平成20年)2月14日(木曜日)



「医果同源」を手に説明する城田准教授 (青森県弘前市で)

試験では、未熟果の果汁が25%含まれるジュース

リンゴ未熟果の果汁を混ぜたリンゴジュースを飲み続けると、血糖値を下げる効果が期待できることを、弘前大学農学生命科学部(青森県)の城田安幸准教授が明らかにした。

未熟果入りリンゴジュース

血糖下げる働き

大教授 弘前准

スを5週間飲み続けた人は、飲み始める前より空腹時の血糖値が100ミリモル当たり8・5ミリモル下がった。飲むのをやめてさ

らに5週間後も、ある程度効果が続いていた。未熟果が50%のジュースでも血糖値を下げる傾向が見られたが、25%ジュースではなかった。

スほどではなかった。一方、ストレートのリンゴジュースを飲んだ人には、血糖値の変化が現れなかった。

人間の体内で、がん細胞などを攻撃するナチュラルキラー細胞の活動を活発にする効果も認められた。未熟果25%ジュースを11人、50%ジュースを13人が5週間飲み続けたところ、この細胞の活性がそれぞれ9・9%、11・4%上がった。

以上のポリフェノールが入っている。2005年、免疫機能を活発にする効果について、特許を取得した。

リンゴの未熟果には、成熟果の5〜10倍のポリフェノールが含まれる。多くの植物に含まれるポリフェノールには、がんや心臓病の予防効果があるとされる。ただ、血糖値の変化について城田准教授は「ポリフェノールだけではなく、未熟果と成熟果の成分の相乗効果だろう」と考える。

城田准教授は、自作地と借地合わせて9畝の園地で家族とリンゴを栽培する。リンゴ果実がまだ成熟しない8月までに収穫し、ジュースに混ぜる。未熟果の果汁が25%含まれるジュースを「医果同源」と名付けて販売。1本160ミリリットル、350円。リンゴ2個分